

企業景況

1 『法人企業景気予測調査』（財務省福岡財務支局調査結果）

(1) 北部九州地方の企業景況判断（平成23年1～3月期）

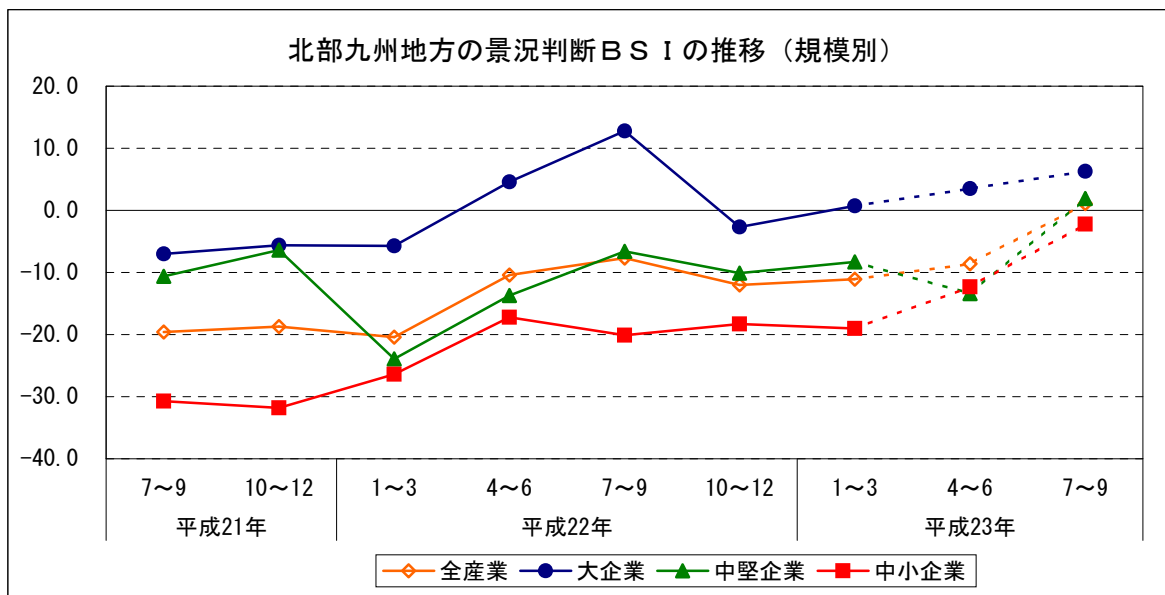
製造業は「下降」超幅が拡大し、非製造業は「下降」超幅が縮小しており、全産業では「下降」超幅が縮小している。

規模別にみると、大企業は「上昇」超に転じており、中堅企業は「下降」超幅が縮小、中小企業は「下降」超幅が拡大している。

(原数値) [前四半期と比較して] (B S I : %ポイント)

法人企業景気予測調査			景況判断B S I					
			全産業	業 種 別		規 模 別		
				製造業	非製造業	大企業	中堅企業	中小企業
平成21年 (2009)	7～9月期	現状	▲ 19.6	▲ 9.7	▲ 23.1	▲ 7.0	▲ 10.6	▲ 30.7
	10～12月期		▲ 18.7	▲ 3.5	▲ 24.0	▲ 5.6	▲ 6.4	▲ 31.8
平成22年 (2010)	1～3月期		▲ 20.4	▲ 16.2	▲ 21.9	▲ 5.7	▲ 23.9	▲ 26.4
	4～6月期		▲ 10.4	▲ 0.7	▲ 13.8	4.6	▲ 13.7	▲ 17.2
	7～9月期		▲ 7.7	1.3	▲ 11.0	12.8	▲ 6.6	▲ 20.1
平成23年 (2011)	10～12月期		見通し	▲ 12.0	▲ 7.9	▲ 13.5	▲ 2.7	▲ 10.1
	1～3月期	▲ 11.1		▲ 13.2	▲ 10.3	0.7	▲ 8.3	▲ 19.0
	4～6月期	▲ 8.6		▲ 4.6	▲ 10.1	3.5	▲ 13.4	▲ 12.3
	7～9月期	1.1		6.0	▲ 0.7	6.3	1.9	▲ 2.2

※ B S I = 「上昇」 - 「下降」社数の構成比



注) 調査の概要

- 調査の目的 我が国経済活動の主要部分を占める企業活動を把握することにより、経済の現状及び今後の見通しに関する基礎資料を得ることを目的として、統計法に基づく一般統計調査として実施。
- 調査方法 対象企業に調査票を郵送、またはオンラインにより自計記入を求める方法による。
- 調査時点 平成23年2月15日
- 対象期間 平成23年1～3月期（又は3月末）現状判断、平成23年4～6月期（又は6月末）見通し、平成23年7～9月期（又は9月末）見通し
- 対象企業数 北部九州3県（福岡県、佐賀県、長崎県）に所在する資本金1千万円以上（ただし、電気ガス・水道業及び金融・保険業は資本金1億円以上）の企業。
対象企業：643社（うち、大企業（資本金10億円以上）が147社、中堅企業（1億円以上～10億円未満）が168社、中小企業（1千万円以上～1億円未満）が328社）。
製造業 161社 非製造業 482社
- 回答企業数 大企業143社（回収率97.3%）、中堅企業157社（同93.5%）、中小企業268社（同81.7%）

企業景況

2 『中小企業景況調査』（中小企業基盤整備機構調査結果）

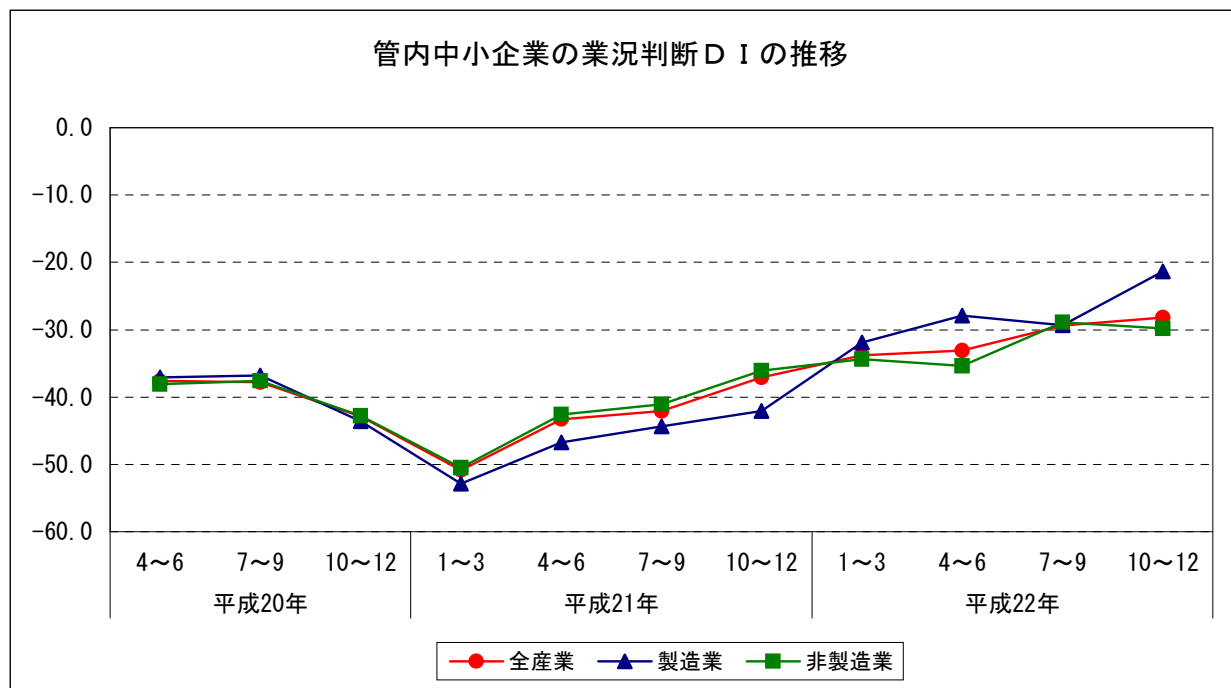
(1) 中小企業の業況判断D I（平成22年10～12月期）

- ア 全産業で▲28.2と、前期から1.2ポイントマイナス幅が縮小した。
- イ 製造業は、▲21.3と、前期から8.0ポイントマイナス幅が縮小し、非製造業では、▲29.8と、同0.9ポイントマイナス幅が拡大した。

前期比(季節調整値)

		全産業	製造業	非製造業
平成20年 (2008)	4～6月期	▲ 37.6	▲ 37.1	▲ 38.1
	7～9月期	▲ 37.8	▲ 36.8	▲ 37.6
	10～12月期	▲ 42.9	▲ 43.6	▲ 42.8
平成21年 (2009)	1～3月期	▲ 50.9	▲ 52.9	▲ 50.5
	4～6月期	▲ 43.3	▲ 46.7	▲ 42.6
	7～9月期	▲ 42.1	▲ 44.4	▲ 41.1
平成22年 (2010)	10～12月期	▲ 37.1	▲ 42.1	▲ 36.1
	1～3月期	▲ 33.8	▲ 31.9	▲ 34.4
	4～6月期	▲ 33.1	▲ 27.9	▲ 35.4
	7～9月期	▲ 29.4	▲ 29.3	▲ 28.9
	10～12月期	▲ 28.2	▲ 21.3	▲ 29.8

管内中小企業の業況判断D I の推移



資料：第122回中小企業景況調査（2010年10～12月期）結果から、福岡県分を使用

- 1) 調査時点 平成22年11月15日
- 2) 対象期間 平成22年10～12月期の業況判断
- 3) 調査対象 中小企業基本法に定義する、全国の中小企業

企業景況

3 『福岡県中小企業動向調査(小企業編)』（日本政策金融公庫福岡支店調査結果）

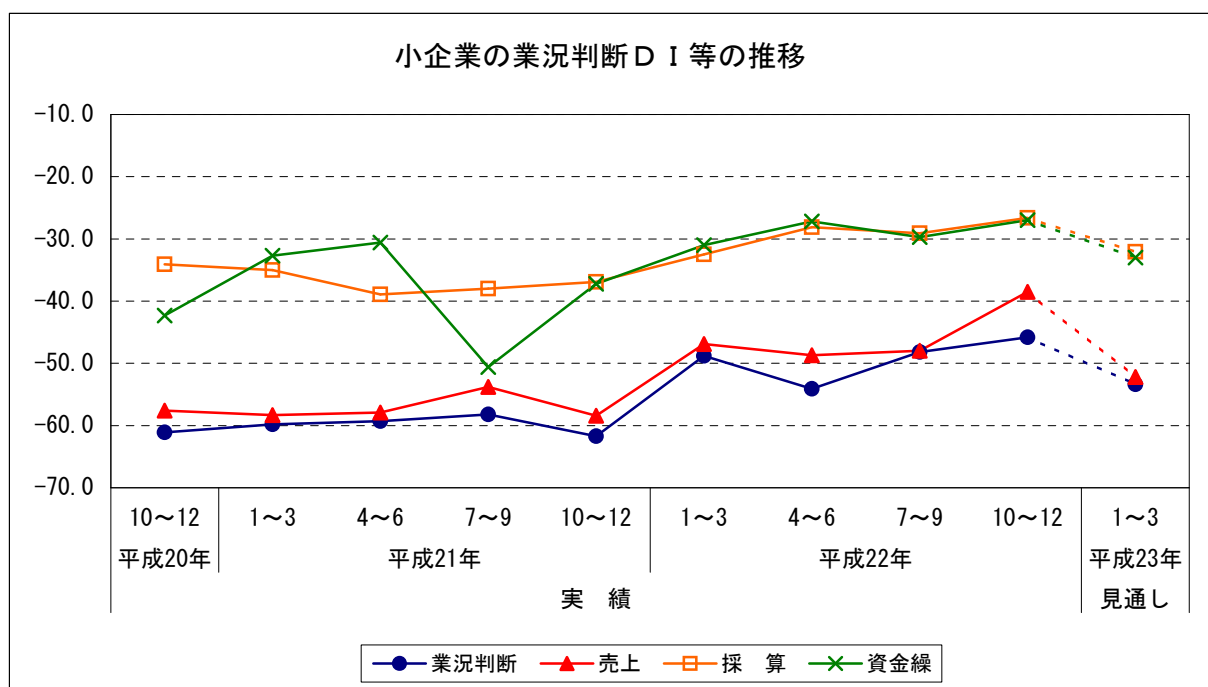
(1) 22年10～12月期の概況

前期に比べ、業況判断DIは2.4ポイント上昇し、売上DIは9.5ポイント上昇した。

(2) 23年1～3月期の見通し

今期に比べ、業況判断DIは7.6ポイント低下、売上DIは13.7ポイント低下する見通しとなっている。

			業況判断	売上	採算	資金繰
平成20年	10～12月期	実績	▲ 61.1	▲ 57.6	▲ 34.1	▲ 42.3
	1～3月期		▲ 59.8	▲ 58.3	▲ 35.0	▲ 32.7
平成21年 (2009)	4～6月期		▲ 59.3	▲ 57.9	▲ 38.9	▲ 30.6
	7～9月期		▲ 58.2	▲ 53.8	▲ 38.0	▲ 50.6
	10～12月期		▲ 61.7	▲ 58.4	▲ 36.9	▲ 37.2
平成22年 (2010)	1～3月期		▲ 48.8	▲ 46.9	▲ 32.5	▲ 31.0
	4～6月期		▲ 54.1	▲ 48.7	▲ 28.1	▲ 27.2
	7～9月期		▲ 48.2	▲ 48.0	▲ 29.1	▲ 29.7
	10～12月期		▲ 45.8	▲ 38.5	▲ 26.6	▲ 27.0
平成23年	1～3月期		見通し	▲ 53.4	▲ 52.2	▲ 32.1



注) 調査の概要

- 1) 調査時点 平成22年12月中旬
- 2) 調査方法 郵送によるアンケート調査
- 3) 調査対象 日本政策金融公庫福岡県内5支店取引先379企業
- 4) 有効回答数 239企業 (有効回答率63.1%)
 製造業 (従業員20人未満) 27企業、卸売業 (同10人未満) 18企業、小売業 (同10人未満) 65企業、
 飲食店・宿泊業 (同10人未満) 33企業、サービス業 (同20人未満) 52企業、建設業 (同20人未満) 34企業、
 その他 (同20人未満) 10企業

企業景況

4 『九州の経営動向調査』（西日本シティ銀行調査結果）

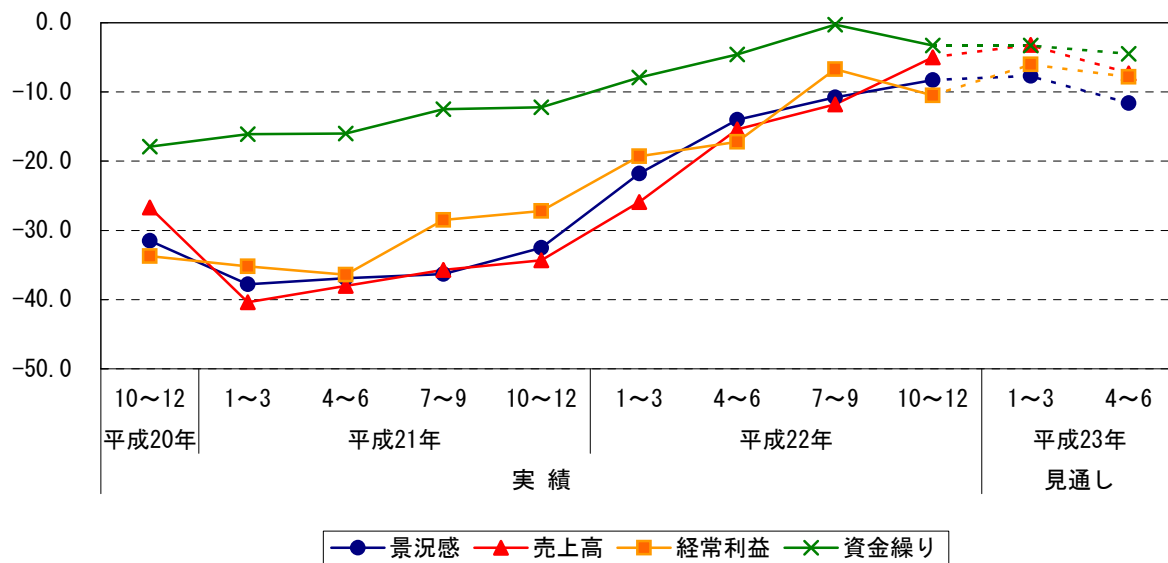
(1) 平成22年10～12月期の概況（前回調査比）

- ア 景況感：2.5ポイント改善し、「悪化」超幅が縮小した。
- イ 売上高：6.8ポイント改善し、「悪化」超幅が縮小した。
- ウ 企業収益：3.8ポイント悪化し、「悪化」超幅が拡大した。
- エ 資金繰り：3.0ポイント悪化し、「悪化」超幅が拡大した。

(単位：%)

年次	期	実績	景況感	売上高	経常利益	資金繰り
平成20年	10～12月期	実績	▲ 31.5	▲ 26.7	▲ 33.7	▲ 17.9
	1～3月期		▲ 37.8	▲ 40.4	▲ 35.2	▲ 16.1
	4～6月期		▲ 36.9	▲ 38.0	▲ 36.4	▲ 16.0
	7～9月期		▲ 36.3	▲ 35.7	▲ 28.5	▲ 12.5
平成21年 (2009)	10～12月期		▲ 32.5	▲ 34.3	▲ 27.2	▲ 12.2
	1～3月期		▲ 21.8	▲ 25.9	▲ 19.3	▲ 7.9
	4～6月期		▲ 14.0	▲ 15.4	▲ 17.2	▲ 4.6
	7～9月期		▲ 10.8	▲ 11.8	▲ 6.7	▲ 0.3
平成22年 (2010)	10～12月期		▲ 8.3	▲ 5.0	▲ 10.5	▲ 3.3
	1～3月期		▲ 7.7	▲ 3.2	▲ 6.0	▲ 3.3
	4～6月期		▲ 11.6	▲ 7.3	▲ 7.8	▲ 4.5
平成23年 (2011)	1～3月期	見通し				
	4～6月期					

九州の企業景況感BSI等の推移



注) 調査の概要

- 1) 調査対象：株式会社西日本シティ銀行の主要取引先764社（今回の回答社数341社，回答率44.6%）
 地域別回答企業：福岡県279社（構成比81.8%）、福岡県外九州各県62社（同18.2%）
 業種別回答企業：製造業85社（構成比24.9%）、非製造業256社（同75.1%）
 規模別回答企業：大企業（資本金10億円以上）10社（構成比2.9%）、中堅企業（資本金1億円以上10億円未満）56社（同16.4%）、中小企業（資本金1億円未満）275社（同80.6%）
- 2) 調査方法：アンケート方式
- 3) 調査時期：平成22年12月1日
- 4) 調査事項：①業績総合判断 ②売上高 ③経常利益 ④資金繰り ⑤商品在庫 ⑥設備投資動向
 ⑦採用状況 ⑧経営上の問題点 ⑨経営に関する調査結果

※景況動向はBSI方式で表示：BSIとは、「好転・増加・上昇」（前年同期比）の企業割合から「悪化・減少・下落」の企業割合を差し引いた指標。

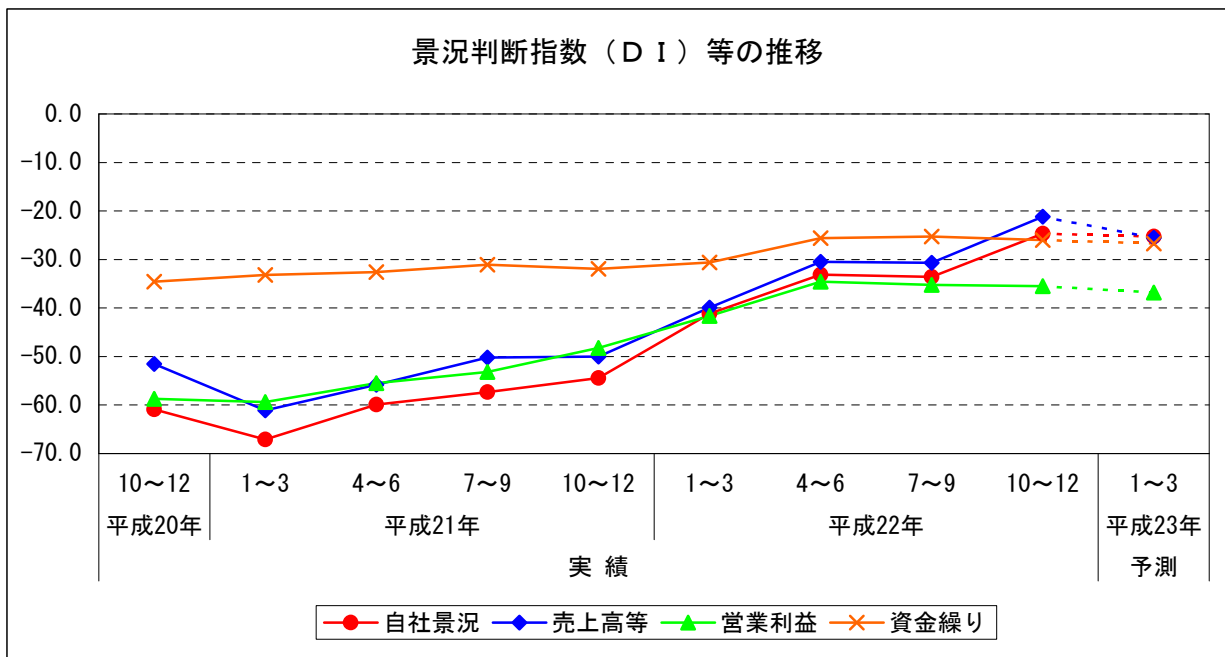
企業景況

5 『地場企業の経営動向調査』（福岡商工会議所調査結果）

(1) 平成22年10～12月期の概況

ア 自社景況：▲24.7となり、前期に比べ8.9ポイントの改善となった。

		自社景況	売上高等	営業利益	資金繰り
平成20年	10～12月期	▲60.9	▲51.5	▲58.7	▲34.6
	1～3月期	▲67.1	▲61.1	▲59.4	▲33.2
平成21年 (2009)	4～6月期	▲59.9	▲55.8	▲55.5	▲32.6
	7～9月期	▲57.3	▲50.2	▲53.2	▲31.1
	10～12月期	▲54.4	▲50.0	▲48.2	▲31.9
平成22年 (2010)	1～3月期	▲41.2	▲39.9	▲41.6	▲30.6
	4～6月期	▲33.1	▲30.5	▲34.6	▲25.6
	7～9月期	▲33.6	▲30.7	▲35.2	▲25.3
	10～12月期	▲24.7	▲21.2	▲35.5	▲26.0
平成23年	1～3月期	▲25.3	▲25.5	▲36.8	▲26.7



注) 調査の概要

- 調査目的：福岡市内地場企業（一部福岡市近郊を含む）の景況及び経営動向を把握すると同時に、これらの情報を企業へ提供し、企業経営の参考に資するものである。
- 調査時期：平成22年12月末時点
- 調査対象：当所会員企業を対象とし1,500社を任意抽出。回答数：631（回答率：42.1%）
業種別回答企業数：建設業133社（構成比21.1%）、製造業81社（同12.8%）、卸売業98社（同15.5%）
小売業76社（同12.0%）、運輸・倉庫業21社（同3.3%）
サービス業222社（同35.2%）
規模別回答企業数：中小企業580社（構成比91.9%）、大企業51社（同8.1%）
- 調査要領：四半期毎にアンケート用紙を郵送、前年同期比の回答を求めるもので、今回は平成22年10～12月期の実績、及び平成23年1～3月期の予想

企業景況

6 九州・沖縄『企業短期経済観測調査』（日本銀行福岡支店調査結果）

(1) 九州・沖縄の業況判断（平成22年12月）

製造業は2期連続で悪化し、非製造業は7期ぶりに悪化したため、全産業では7期ぶりに悪化している。

規模別にみると、大企業、中堅企業、中小企業ともに悪化している。

（「良い」-「悪い」、回答社数構成比%ポイント）

企業短期経済観測調査			業況判断D. I.					
			全産業	業種別		規模別		
				製造業	非製造業	大企業	中堅企業	中小企業
平成21年 (2009)	3月	実績	▲ 38	▲ 43	▲ 35	▲ 38	▲ 40	▲ 36
	6月		▲ 35	▲ 41	▲ 32	▲ 27	▲ 35	▲ 36
	9月		▲ 28	▲ 31	▲ 28	▲ 27	▲ 25	▲ 31
	12月		▲ 25	▲ 22	▲ 25	▲ 16	▲ 23	▲ 26
平成22年 (2010)	3月		▲ 16	▲ 15	▲ 17	▲ 8	▲ 15	▲ 18
	6月		▲ 10	0	▲ 15	0	▲ 5	▲ 16
	9月		▲ 6	▲ 2	▲ 8	7	4	▲ 12
	12月		▲ 8	▲ 3	▲ 11	6	▲ 3	▲ 13
平成23年	3月	予測	▲ 15	▲ 11	▲ 17	4	▲ 13	▲ 20

注) 1)回答期間：11月11日～12月14日

2)対象企業：九州〈含む沖縄〉内の企業 1,171社

	対象	回答	回答率
製造業	392	389	99.2%
非製造業	779	770	98.8%
全産業	1171	1159	99.0%

